

本文をたて・よこに置き換えて作品化してもよい。

●自運〈創作〉部

[出品委嘱 (師範)]

〈参考文 A〉

田中鳴舟会長選文・書 (用紙40×90cm以内、タテ・ヨコ自由)

この課題は約21%に縮小しています。約479%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。(作品例)

今朝もゆくと、日のさへしん
 かが家と叫ぶと家の鏡しくなりて
 はかなくもまたあゝのいよと心にほび暮すー
 けかなくもまたわがくも
 場所は、鉄道に遠りぬ
 心おきかも故郷の村のほすれに遊びしむ
 西洋風の木造のさげうすーたりと構を
 高ひすも、さうはまた何の飾りのなくとも
 なる階段と六つと明と番前…
 げにふなり、すわり心地のよき樹あも
 め幾事も幾度も思ひは、あ家のと
 思ひし毎にかゝすつ寒く同取りのたまなを
 心のうちに描きて
 ランプの光の無自かにみれとなく眼をあつむれば
 り家にはむかりしそのまより、見ゆる心地して
 浮見に溢乳する妻のひとの隅のあらら向き
 くとすいとし口もとにけかなく笑ふものほり来る
 さうさの庭は広くして、草の繁ふにまかせて
 夏もなれば夏の雨、おのがりーな草の葉に
 音立て舞うさうさ
 またその隅にひともの大樹と撫うて
 白壁の木の腰掛と膝に置むしー
 西陣の石目は空処に出て
 四ひらきを送り来る丸巻すりの新刊の
 本の頁と切りわけて
 食事の知らせあふまをうろうろと過すて
 また、こゝにうつろふ眼を丸りきり用もけ
 村の子供を集めしは、いろりの話聞かすて…
 けかなくもまたわがくも
 つつしもなむ若き日にわがれ来りて
 月々のららしひのくに疲れゆく
 都布居住者のソソがし心と一度ほびては
 けかなくもまたわがくも
 ならわしくして、何時までも葉に惜しくお思ひ
 そあひす、の満たやね雪々と共に
 けしあより空し、こゝ知りがち
 なち、若き日に人知らず志やうの服付して
 妻にも昔時す真白なるランプの光を見つるて
 ひよりりやわに、熱心に心のうちに思いつる
 所談米「母を思ふ」意と。○。り。□

石川啄木「家」「呼子と口笛」より
 注記 ①旧仮名遣いを現代仮名遣いに改めて
 います。
 ②一部省略した所があります。

※この作品は297×84cmに書いています。
 添乳 其処

臨書部参考古典・古筆

臨書部の参考となる古典・古筆の作品名をいくつか示しておきます。
 果欄で取り上げられた作品もありますので、作品づくり役に役立ててく
 ださい。

かな	漢字楷書
本阿弥切	皇甫誕碑
曼殊院本古今和歌集	九成宮醴泉銘
高野切第三種	孔子廟堂碑
寸松庵色紙	孟法師碑
元永本古今和歌集下(抄)	雁塔聖教序
高野切第一種	褚遂良法帖帳集
関戸本古今和歌集	集字聖教序
粘葉本和漢朗詠集	趙孟頫集[元](前後赤壁賦など)
	蘭亭十三跋

●自運〈創作〉部

[出品委嘱 (師範)]

〈参考文 B〉

成田嵐石副会長選文・書 (用紙A3-約29.7×42cm以内、タテ・ヨコ自由)
 この課題は約21%に縮小しています。約479%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。(作品例)

月かまに雲はあつまり宵空に
 月冨由野分地になり人けり
 へんむ春の街ゆきふとおもつ
 さうさの梅の啼啼く声
 雲をみ妻の海に吹きなす
 富士に風冨ゆ夕映くのそ
 山越え空わたりゆく遠隔りの
 風ちり日なりみさへも花
 かりき春のふかなみすまを
 丸は飾りと君おもひ行く
 春雲の国越え長門にまたこゝ
 春の国ゆは聴聴く
 椰子の姿を捨て秋の海思き
 なまに立ちて日にけし見
 われあれかすかに声す捨てる
 椰子のつらの流れ奏吹けば
 若水非我事。○。り。□

若山牧水の和歌『若山牧水歌集』(岩波書店)
 本文は現代表記に改めています。
 ※この作品は297×42cmに書いています。
 杜鵑 椰子

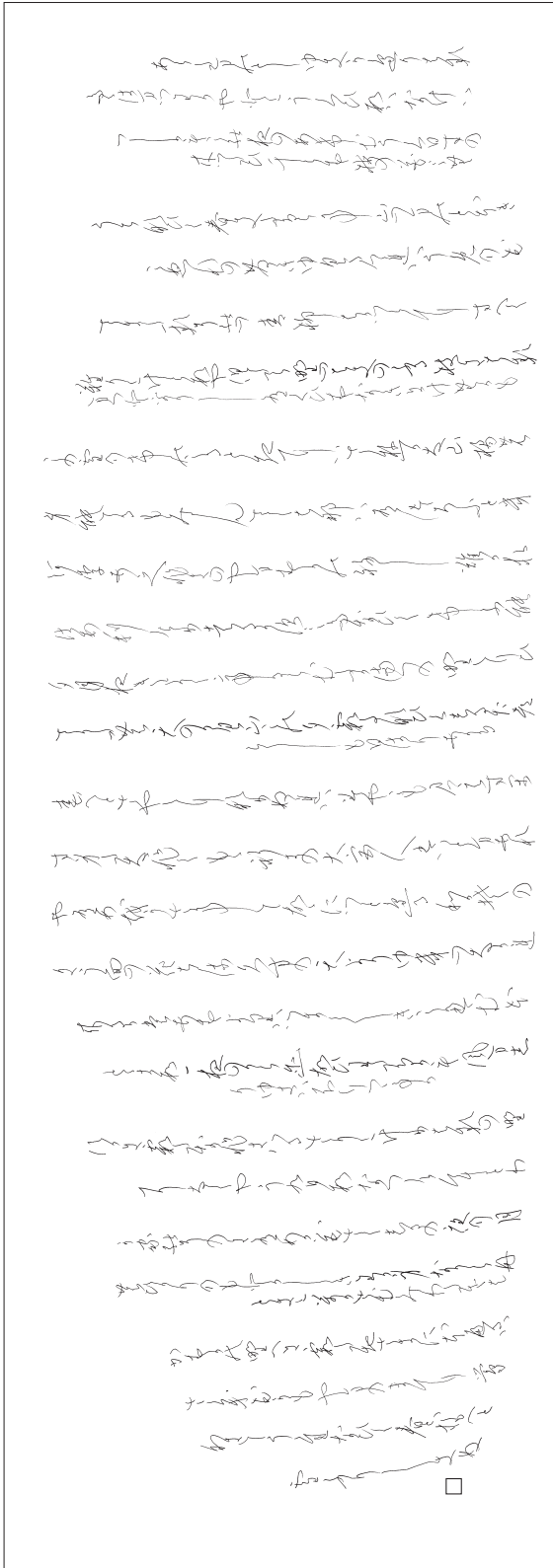
☆白運創作部・規定1部の選文・手本はこの形式ですが、

中一泉流常任理事選文・書（用紙40×90cm以内、タテ・ヨコ自由）
 ※この作品は、29.7×84cmに書いています。

〈参考文献C〉

〔出品委嘱（師範）〕

●自運〈創作〉部



『万葉集』春の歌

① あらたまの年行き選り春立たば
 まつわが宿にうくひすは晴け

② いつしかこの夜の明けむ霧すの
 木佐ひ散らす梅の花見む

③ うちなびく春来たるらし山の際の際
 遠き木末の咲きゆく見れば

④ 梅の花さきたる苑の青柳は
 かづらにすべくなりにはけらずや

⑤ くだら野の萩の土枝に春待つと
 居りし薺なきにけむかも

⑥ この雪の消けぬ時にいざ行かな
 山橋の笑の照るも見む

⑦ さく花はうつろふときありあしひきの
 山菅の根し長くはありけり

⑧ 春霞たなびくけふの夕月夜
 清く照るらむ高松の野に

⑨ ひさかたの天の香具山この夕
 霞たなびく春立つらしも

⑩ 雲あかる春べとさやになりぬれば
 都も見えす霞たなびく

⑪ ももしきの大宮人は睡あれや
 梅をわざとしてここに集へる

⑫ わが苑に梅の花散るひさかたの
 天より雪の流れ来るかも

⑬ 明日よりは継ぎて聞えむほととぎす
 一夜のからに恋ひ渡るかも

⑭ 風まじり雪はふりつつしかすがに
 霞たなびき春ざりにけり

⑮ 春の野に鳴くや薺なつけむと
 わが家の苑に梅が花咲く

⑯ 春の夜の月の光りもどかしき
 わが身ながらも時になませむ

⑰ 見れば春日の野辺に霞立ち
 咲きにはへるは桜花かも

⑱ 山の際に薺なきとちなびく
 春とおもべど雪ふりしきぬ

※ ①～⑫ 『かな鳥場辞典（和歌編）』より
 ⑬～⑱ 『続かな鳥場辞典（和歌編）』より

この課題は約25%に縮小してあります。約400%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

●規定1部

〔規定部四段く準師範〕

〈課題D〉

岩間鴻舟理事選文・書

(用紙26×68cm、タテ・ヨコ自由)

わたしとごもも
 ちた二くぎり
 わたしが枯れ草をまつめと
 ごもも落ちて葉を捨てて来り
 それを堆積さねて
 火をつけた
 ぶすぶすと寂しい煙が立つ
 その煙をながめり
 黙って父と子と
 此处は断崖の上の草場
 その下を時々けたたましい汽笛を
 鳴らして汽車が行く
 地上は霜でまら白
 ごももは堪えかねて
 真赤に凍けた小さな手を
 火に翳した
 けれど火は燃えあがりな
 ごももは寒さにうごいて
 なみだらんが
 灰色の互逆的な空を見あげて
 わたしは雪を待っている
 ちらちら降る雪と……心の上に……
 火はなかなか燃えよがらな
 山村暮鳥の詩と○○かく□

山村暮鳥「私は雪をまつてゐる」『山村暮鳥全詩集』(彌生書房)
 積重とねて凍けた翳した

〈課題E〉

渡辺萩溪常任理事選文・書

(用紙68×26cm、タテ・ヨコ自由)

秋らしい風の吹く日
 柿の木のかげのする庭にむかい
 水のように澄んだそらを眺め
 わたしは机にむかう
 そして時々たのしく庭を眺め
 しおれたあさがおを眺め
 立派な芙蓉の花を讃めたたえ
 しづかに君を待つ気がする
 うつくしい微笑をたたえて
 鳩のような君を待つのだ
 柿の木のかげは移って
 しっかりと日ぐれになる
 自分は灯をつけて また机に向かう
 夜はいく晩となく
 まことにこうこうたる月夜である
 おれはこの庭を玉のように掃きよめ
 玉のような花を愛し
 ちいさな笛のようなむしをとたえ
 歩いては考え
 考えてはそらを眺め
 そしてまた一つの塵をも残さず
 おお掃きよめ
 きよい孤独の中に住んで
 永遠にやって来ない君を待つ
 室生犀星詩 ○○かく□

室生犀星「永遠にやつてこない女性」
 『現代日本文学大系47』(筑摩書房)より

この課題は約28%に縮小してあります。約356%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。本文は現代表記に改められています。

この課題は約28%に縮小してあります。約356%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。本文は現代表記に改めています。

●規定2部「規定部準初段〜三段」

〈課題 F〉

田中瑛果理事選文・書

(用紙B4判Ⅱ約36・4×25・7cm、よこに使用)

雪のふる日に小免は
あかい木の実がたべたさに
親のねたまに山をいで
城の門まできはきたが
あかい木の実はみえもせず
路はわからず日はくれる
ながい廊下の窓のした
なにやら赤いものがある
そっとーのんできてみれば
こは姫君のかんざしの
珊瑚のたまかはずかしや
たべてよいやらわるいやら
免はかなしくなりました。

〇〇 かく □

竹久夢二「赤い木の実」

『どんたく』（日本図書センター）より

この課題は約31%に縮小しています。約325%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

本文は現代表記に改めています。

〈課題 G〉

土田真弓理事選文・書

(用紙B4判Ⅱ約36・4×25・7cm、たてに使用)

旅からかえってみると
この庭にはこの庭の蝉が鳴いている
おれはなにか詩のようなものを
書きたく思い
紙をのべると
水のように平明な幾行もが出て来た
そして
おれは書かれたものをまえにして
不意にそれとはまるで異様な
一種前生のおもいと
かすかなめまいをとこなう吐き気とで
蝉をきいていた

〇〇 かく □

伊藤静雄「庭の蝉」『日本の詩歌23』（中央公論社）より
この課題は約31%に縮小しています。約325%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

本文は現代表記に改め、一部漢字をひらがなに改めています。
ぜんしゅう
前生

●規定3部 「規定部4級〜1級」

(用紙A4判II約29・5×21cm、たてに使用)

〈課題 H〉

村松香雲理事選文・書

古池や蛙飛びこむ水の音
山路来て何やらゆかしすみれ草
此あたり目に見ゆるものは皆涼し
名月や池をめぐりて夜もすがら
秋風のふけども青し粟のいが
いざ行かむ雪見にころぶ所まで

○○ か く □

松尾芭蕉の句「国語便覧」(浜島書店) /

『芭蕉全句集』(角川学芸出版)

蛙かたがは此

この課題は約38%に縮小しています。約263%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

〈課題 I〉

岩尾涼花理事選文・書

あかしやの
金と赤とがちるぞえな
かはたれの
秋の光にちるぞえな
片恋の薄着のねるのわがうれい
曳船の水のほとりをゆくころを
やわらかな君が吐息のちるぞえな
あかしやの金と赤とがちるぞえな

○○ か く □

北原白秋「片恋」『北原白秋全集3』(岩波書店)

本文は現代表記に改めています。

この課題は約38%に縮小しています。約263%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

●規定4部 「規定部10級・新規く5級」

(用紙B5判 約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈課題 J〉 佐藤朝洋理事選文・書

音楽がよくきこえる
 だれも聞いていないのに
 ちいさなフーガが
 花のあいだを 草の葉のあいだを
 染めてながれる

○ ○ かく □

立原道造「薄明」『立原道造詩集』(ハルキ文庫)より

本文は現代表記に改めています。

この課題は約44%に縮小しています。約230%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

〈課題文 K〉 秋山紅華理事選文・書

あすは思えばひととせに
 一夜の秋の夕なり
 うき世にしげるこい草を
 みそらの星もつまんとや
 北斗は色をあらためて
 よろずの光なまめきぬ

○ ○ かく □

島崎藤村「天河 一七月六日の夕」『藤村詩集』(新潮社)

本文は現代表記に改めています。

この課題は約44%に縮小しています。約230%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

●漢字1部 「規定部準初段」師範

(用紙B5判II約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈選文自由〉

〈参考文献L〉 三棹梅花常任理事選文・書

選文の時間のない方は、この「参考文献」を選んでください。

艷陽時節又蹉跎 遲暮光陰復
 若何一歲平分春日少 百年通
 計老時多多中更被愁牽引少
 處兼遭病折磨 賴有銷憂治悶
 藥君家濃耐我狂歌

白居易詩 ○ ○ 書 □

白居易「春晚懷を詠じて皇甫朗之に贈る」山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』(角川文庫)より
 この参考文献は約44%に縮小しています。約230%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

●漢字2部 「規定部10級・新規」1級

(用紙A5判II約21×14・8cm、たてに使用)

〈選文自由〉

〈参考文献M〉 高橋南舟理事選文・書

選文の時間のない方は、この「参考文献」を選んでください。

一心不乱 單刀直入
 大同小異 知足安分
 十人十色 有終之美

○ ○ 書 □

この参考文献は約51%に縮小しています。約195%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

【注】この参考文献を書く場合、①字体は自由。ただし新字体・旧字体の混用は避けること。②楷書・行書・草書のいずれかの書体で統一して書き上げること。

▼用紙の使用はタテに。

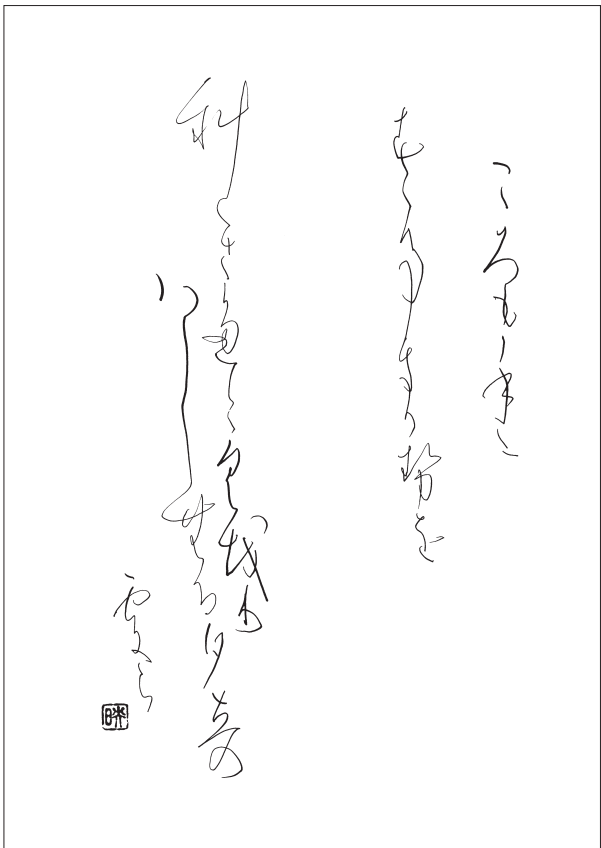
艷陽時節又蹉跎	艷陽の時節	又蹉跎たり	多中更被愁牽引	多中更に愁ひに牽引せられ
遲暮光陰復若何	遲暮の光陰	復た若何せん	少處兼遭病折磨	少處兼ねて病に折磨せらる
一歲平分春日少	一歲	平分すれば 春日少なく	賴有銷憂治悶藥	賴ひに憂ひを銷し 悶を治するの藥有り
百年通計老時多	百年	通計すれば 老時多し	君家濃耐我狂歌	君が家の濃耐と 我が狂歌と

●かな1部 「かな部初段」師範

(用紙B5判 約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈選文自由〉

〈参考文献N〉 三浦映泉常任理事選文・書



宮内卿の歌「かな墨場辞典（和歌編）」（東京堂出版）
 衣手にすずしき風をさき立てて曇りはじむる夕立の空
 ころも手二春、事支可勢を斜き多て、具茂利八し無る夕立の處ら

この参考文献は約44%に縮小しています。約230%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

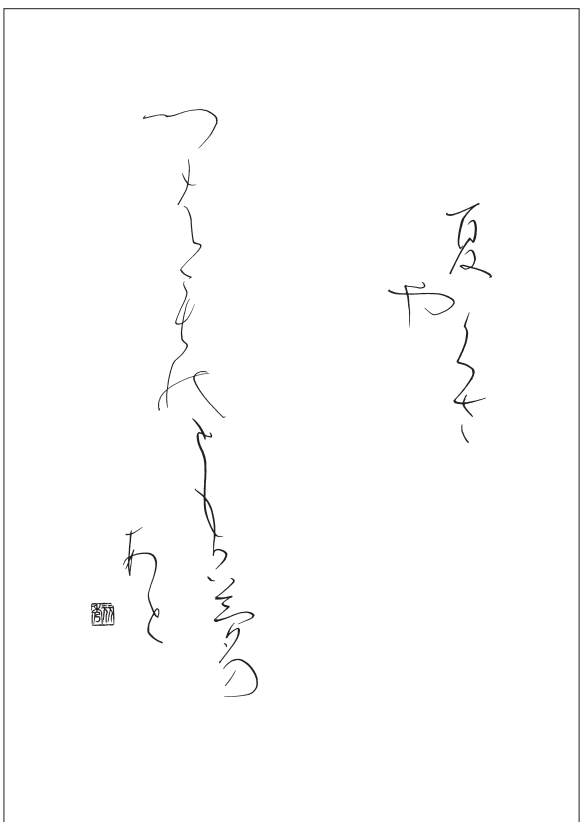
【注】①かな1部・2部とも参考文献です。和歌・俳句・その他何を
 書いてもかまいません。②かな作品風に仕上げてください。③参
 考文を書く場合、漢字・かなの変換は自由です。かな変換の時に
 は旧かな・新かなの混用をしないこと。とくに変体かな使用の際
 に留意。④用紙の使用はタテに。着色は自由。

●かな2部 「かな部4級」準初段

(用紙A5判 約21×14・8cm、たてに使用)

〈選文自由〉

〈参考文献O〉 田中麗秀常任理事選文・書



松尾芭蕉の句「かな墨場辞典（俳句編）」（東京堂出版）より
 夏草^{なつくさ}や兵共^{へいとも}がゆめの跡^{あと}
 夏久^{なつひさ}さや川者^{かわもの}毛能^{けのね}とも可夢^{かむ}のあと

この参考文献は約51%に縮小しています。約195%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

臨書したものを出品されるときは次のことを厳守して
 ください。(なお、臨書での出品は1部に限ります。)
 臨書作品の場合は、原本のコピーを添え、コピーの表
 面のわかりやすいところに「古筆名と出品者名」を鉛
 筆で記入し、一緒に提出のこと。

●手紙文1部「規定部準初段〜師範」

(用紙B5判またはB5判以下の便箋形式)

〈選文自由〉

〈参考文献Q〉 石井珠翠常任理事選文・書
たて書き2枚組み

朝顔まつりて買った植木鉢に水をやリ、風鈴を
つしたら涼しくなりました。
先月あなたがわらいただいた案内はがきて初めて
全日本ペン書道展を拝見しました。
まず数の多さにびっくり、そしていつも何気なく
書いていた自己流とは全く違う美しい字形や
線に魅了されました。
作品の一枚一枚に書いた方の思いが込められて
たくさんのパワーをもらった気がします。
あなたのペン作品も「これがあなたの?」と

疑いたくなるほど素敵でした。
その後、駅まで二分歩き、ゆりかもめでお台場へ。
夏休みを満喫して、若者でいっぱいでした。
おかげさまでいい思い出ができました。感謝です。
暑さももう一ぱくは続きそうですね。
熱中症にはくれぐれもお気をつけください。
秋にならたらお会いしましょう。
八月三日
沢田知恵様
藤川さおり子

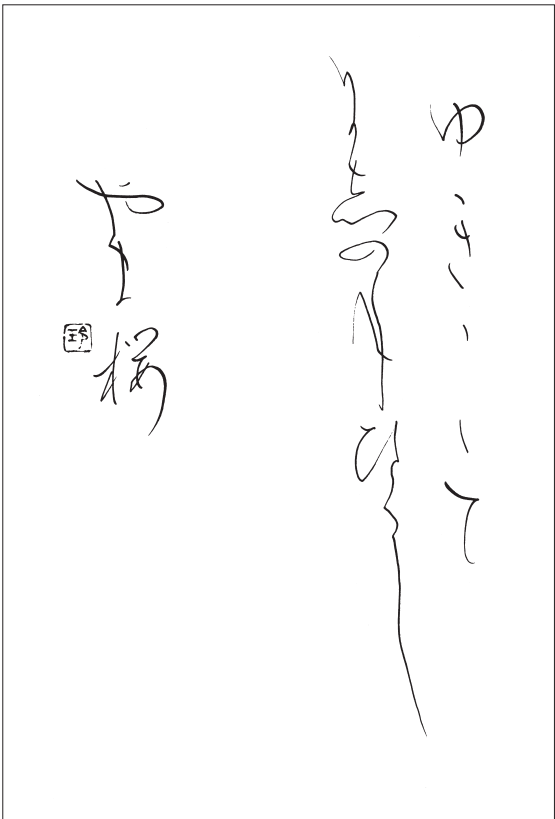
●かな3部「かな部10級・新規〜5級」

〈選文自由〉

(競書用紙Bを、たてに使用)

〈参考文献P〉

薄田玲泉理事選文・書



池西言水の句「かな墨場辞典(俳句編)」(東京堂出版)より

ゆきゆきて 虹の根ひくし山桜

ゆき、て尔志の年ひくしやま桜

この参考文献は約73%に縮小しています。約137%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

参考文献Q・Rは約33%に縮小しています。約302%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

〈選文自由〉

〈参考文 R〉

小高桃果理事選文・書

よこ書き一枚

お教室開校 おめでとう！

主婦として、家事のかたわらの
おけいこで、大変な努力を重ねた
ことでしょう。

明るく元気な幸子は、きっと子ども
たちがあこがれる、すてきな先生に
なると、みんなで話しています。

奥深い書の道、これからも十分
身体に気をつけて、笑顔いっぱいの
教室になりますように。

まずは お祝いまで。

7月29日

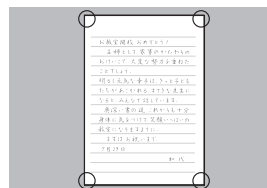
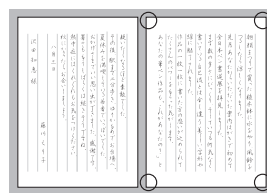
和代

〈たて書き・よこ書きにつきまして〉

手紙文1部は、たて書き文章は2枚1組、よこ書き文章は1枚作品ま
たは2枚1組で出品可。たて書き文章1枚のみは出品不可です。

四隅を軽くのりづけしてください。
両面テープ不可。

【作品貼付例】



【注】

- 手紙文1部・2部ともに参考文です。
- 文体は口語文（日常の現代語文）とします。
- 仮名表記は現代仮名遣いにこだわらず、旧仮名遣いでもけっこうです。
- 体裁は実用的なものの範囲内で自由とし、一般的な書式で仕上げてください。
- 用紙は縦に使用してください。罫線の有無は自由です。
- 行の字詰めは上記の通りでなくてもよい。
- 手紙文1部の作品は、台紙（270×375mm以内、色は自由）に貼り付けて出品してください。
- 出品票一式を作品表面の左上にクリップでとめてください。

●手紙文2部「規定部10級・新規く1級」

(用紙八ガキ判Ⅱ約14・8×10cm、たてに使用)

〈選文自由〉

〈参考文献S〉 森 翠香理事選文・書

この度はお忙しい中
お心づくしの品を
お贈りいただきまして
誠にありがとうございます

この参考文献は約73%に縮小しています。約137%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

【注】 ・筆ペン1部は参考文献です。 ・用紙の使用はタテに。

・漢詩や漢文を題材としてもよい。

●筆ペン1部「筆ペン部推薦く師範」

(用紙B5判Ⅱ約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈選文自由〉

〈参考文献T〉 田尻清峰理事選文・書

暮れ行けば浅間も見えず
歌哀し佐久の草笛
千曲川いざよう波の
岸近き宿にのぼりつ
濁り酒濁れる飲みて
草枕しばし慰む

藤村の詩を○ ○ ○ かく □

島崎藤村「千曲川旅情の歌一」の一節『美しい日本の詩歌⑫』（岩崎書店）より
この課題は約44%に縮小しています。約230%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

●筆ペン2部 「筆ペン部準初段〜五段」

(用紙B5判Ⅱ約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈課題U／行書〉

多田溪花理事選文・書

青い空は動かない

雲片一つあるでない

夏の真昼の静かには

タールの光も清くなる

○ ○ かく□

中原中也「夏の日の歌」の一部『中原中也詩集』

雲片

原文の句読点を省略しています。

この課題は44%に縮小しています。約230%に拡大すると原寸の大きさになります。

●筆ペン3部 「筆ペン部10級・新規〜1級」

(用紙A5判Ⅱ約21×14・8cm、たてに使用)

〈課題V／楷書〉

八巻佳代子理事選文・書

折りとりし

花のしづくや

山さくら

蛇笏の句を ○ ○ かく□

飯田蛇笏の句『日本文学全集69 現代句集』(筑摩書房)より

本文は現代表記に改めています。

この課題は約51%に縮小しています。約195%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

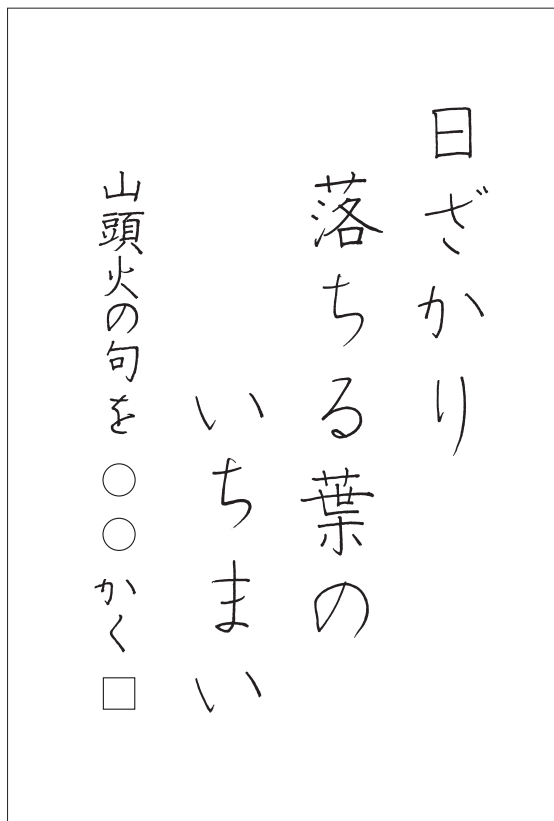
●通信教育部「通信教育受講生・修了生」

〈選文自由〉

(用紙八ガキ判Ⅱ約14・8×10cm、たてに使用)

〈参考文献W〉

田中鳴舟会長選文・書



種田山頭火の句

この参考文は約73%に縮小しています。約137%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。原文の句読点を省略しています。

著作権につきまして

「ペンの光」自由作品部ならびに全日本ペン書道展覧会出品作品等、ペン字作品全般につきまして、著作権の遵守をあらためてお願いいたします。

存命もしくは没後70年未満の作家(訳者含む)の文芸作品(詩、小説)や歌詞は著作権が保護されており作品の題材として引用し制作する場合は著作権者(著作者本人または著作権継承者、著作権管理団体)の許可を得る必要があります。著作物利用の申請手続きは、出品者各自が行ってください。許諾を得られた上でご出品ください。許諾の得られていない出品作品は展示及び本誌に掲載できません。また、著作権法に抵触した場合の損害賠償等は出品者が対応するものとし、主催者は一切関与いたしませんのでご注意ください。

▶書籍を作品にされる場合

日本文藝家協会 作品1件につき1,100円(税込・著作権使用料)
<http://www.bungeika.or.jp/procedur.htm>

▶音楽(歌詞)を作品にされる場合

一般社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC) 作品1件につき
3,300円(税込・著作権使用料)
<https://www.jasrac.or.jp/info/create/publish.html>

